

かさおか



笠岡高校100年史より

残暑お見舞い
申し上げます

「笠岡今はむかし物語」

「笠岡懐かしの映像」に登場する昭和5年頃の笠岡高等女学校は、岡山県立笠岡高等学校の前身で、1902年(明治35年)に笠岡町立笠岡女学校として産声をあげ、町立実家高等女学校、町立高等女学校、岡山県笠岡高等女学校と名を変え、1928年(昭和3年)に岡山県に移管されて岡山県立笠岡高等女学校と改められました。

この写真は昭和14年の朝礼の様子で、両脇が教職員、右の6列は新入生でしょう。か、教職員と生徒を合わせると約800名、後方の大きな建物は昭和2年に落成した屋内体操場で、左奥の校門坂道には桜も咲いている様子です。

段々と時代が変わり、忘れ去られる郷土の歴史や人々の生活の様子。

まちづくり協議会では懐かしい写真などを探しています。もし故人のアルバムなどに残っていましたら是非お知らせください。よろしくお祈りします。

酷暑の折り、ご自愛のほどお祈り申し上げます。

会長

8月の行事予定

8月21日(日)の役員会は都合により中止し、書面による連絡といたします。

笠岡小さな映画館プロジェクト

○8月7日(日)10:00～
第9回映画会を開催します。



『笠岡地区まちづくり協議会』

事務所：笠岡市笠岡2627番地
「井戸会館」内

電話：63-5949

Fax：75-0101

E-mail：zukuri2@mx1.kcv.ne.jp

開館日：月・水・金曜日14時～17時

小学4年生向けの副読本

「絵と写真、

地図で見る笠岡町の歴史」を発行

文化部会・笠岡町の歴史を知る会

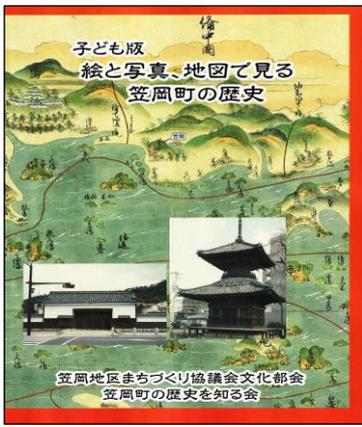
繁地 晋

まちづくり協議会発足当時、子ども新聞部を立ち上げて「笠岡自慢子ども新聞」の発行に取り組んで来ました。子ども達がテーマを決めて取材し、四苦八苦しながらパソコンで編集して校正を重ね、発行した新聞は6年間で23号に達しました。

しかし、入部希望者の減少から新聞部の活動はいっしょか中止になり、今一度子ども達に「笠岡町の歴史」に興味を持ってもらいたいとの思いから副読本の作成に取り掛かりました。

完成した副読本は、随所に絵や写真を載せて読みやすくしており、先生方や友達と一緒に「笠岡町の歴史」に触れ、笠岡の新しい発見をしてもらえたらと願っています。

なお、7月14日に笠岡小学校を訪ね、4年1組で贈呈式を行い80冊を寄贈しました。



A4版カラー印刷32頁
付録・笠岡沿革史15頁
1冊1000円(税込み)
で販売します。
購入ご希望の方は事務局
までお願いします。

1年生	64名
2年生	61名
3年生	66名

笠岡市立笠岡西中学校 中学生200人アンケート

総務部会の取り組みとして、夏休みを目前に、笠岡西中学校のご協力を頂きながら、全校生徒のアンケート調査を実施しました。

10年〜20年後の地域のあるべき姿を探る目的に、将来を担う中学生の考え方や意見・アイデアを聞いたもので、平成28年・令和元年に続き第3回目となります。

これから詳しい分析を行います
が、「今後も住み続けたいと思いますか」の問いかけに対して、「思う」は第1回が80%、第2回が62%、そして今回が49%と次第に減少しています
ますが、「人が親切・自然が豊か・災害が少ない、静かで平和」といった郷土の住み易さから、住み続けたいと思ってくれているようです。

一方の「思わない」では、「店や遊ぶところが無い、希望する仕事や望みを叶えたい・大学がない・都会に行きたい」など、1年生32%に対して3年生は62%と倍近い数で、将来を具体的に考えている年頃なのかなと思います。



◇台風や大雨に備えて◇

台風や大雨は、いきなり発生する地震と異なり、やってくるまでにいくらか余裕はありますが、のんびり構えているわけにはいきません。テレビやラジオで報道される台風や大雨の正確な情報を聞き、早めの対策が大切です。

大雨の恐れがあるときは、排水口や雨どいの中にたまっているドロ、ゴミなどを取り除いて排水を良くしておいてください。浸水に備えて家具、タタミなど家財道具は高い所へ、流れやすいものは、ロープやハリガネで固定するか、安全な場所へ移しておきましょう。浸水、がけ崩れなどの心配がある場合には、いつでも避難できる態勢を整えておきましょう。

集中豪雨は、気象の変化によって突発的に、狭い地域に短時間に多量の雨が降るため、とくに予測が難しく、局地的に大きな被害が発生します。気象情報だけでなく、雨の降り方や川の水かさなどにも注意し、自治体が発表している避難場所を確認し、避難しましょう。

編集後記

例年より早い梅雨明けで身体が参っていましたが、今度は戻り梅雨の様な天候が続いたりして、異常気象が日常化してきたら大変です。

災害やコロナから自分の身を守りながら、この暑さを乗りきりましょう。I・M